

綜 説

京 都 の 結 核 (I)

土 屋 忠 良*

(本論文は、私が京都府衛生部長時代に、京都府医師会や京都府保健所長会議其他に於て「京都府に於ける結核患者の消長とこれが予防撲滅対策に就て」とか「……予防撲滅対策回顧」と題し、講演した要旨であるが、偶々閑を得たのでこの要旨を成文化したものである。)

第 1 章 緒 言

Tuberculosis (Tuberkulose) T.Bは従来Leprosy (Aussatz)同様1の hereditary disease(Erbleiden)として取扱われ来つたが、1882年 Robert Koch により tubercle bacillus (Tuberkelbazillen) が発見せられて以来、T.B も亦 Chronic infectious diseases の1であることが判明せられたことは衆知の通りである。

然るに文化を誇る京都府殊に京都市民の間に於てすら今日に至るも尚且つ相変わらず hereditary disease としての取扱をして居る向が案外に多く、Marriage 取りまとめ等に際し大なる支障を見聞せられ居るところである。

私は、昭和15年7月に、全国的に行われた都道府県の衛生主脳者の大移動に際し、図らずも広島県から京都府に転勤を命ぜられたのであるが、京都府着任早々に聞かされたのが京都府に於ける T.B 淫侵の問題であつた。

私は、日本否世界の観光都市であると自他共に誇る山紫水明の地、名所旧蹟に富む京都府殊に京都市に何が故に T.B の患者が多いのか、果して然るかと詳しく検討したところ、ここ10数年を通じ、京都府に於けるT.B death rate (Mortalität) は余りに high rate で **T.B Kyoto** と呼称せられて居る汚名も決して故なきに非ざることの認識を新にさせられた次第であつた。

「こりやいかん、このまま放つておいたらえらいことになるぞ、1日も速かに T.B Kyoto の汚名を返上しなげりやならない。私の京都府着任の第1仕事は、先ず何をしておいても T.B の予防撲滅からである」と考

えたので、早速に府医師会、大学、日赤、国立療養所其他の病医院の medical specialist の参集を頼むし、T.B discussion meeting を開き、種々の意見を拝聴し、これを基礎として取り敢えず私は**京都府結核予防撲滅10ヶ年計画**を樹立し、これが実施を各方面に依頼懇請すると同時に、京都府に於ける T.B 患者の ups and downs につき精査研究に当つた次第であるが、それ以降現在に至るまでの大体の動向をも承知し得られたので茲に併せて報告することとする。

第 2 章 結核死亡者

第 1 節 京都府結核死亡率

1912年(明治45年、大正元年)以降累年に亘り京都府に於ける T.B death rate (Mortalität) を観るに all Japan の夫に比し各年共に著しく high rate を挙げ居ることに先ず一驚させられたところである。

(TABLE I)

TABLE 1. T.B death rate in Kyoto Ref.

Year	K.P	all Japan
1912~1916 (大正元年)	32.3	21.5
1917~1921	32.4	23.0
1922~1926	25.5	19.8
1927~1931	25.5	19.1
1932~1936	25.8	19.2
1937 (昭12)	25.7	20.3
1938 13	26.2	20.6
1939 14	26.3	21.2
1940 15	26.3	21.0
1941 16	27.1	20.8
1942 17	27.8	21.5
1947 22	25.3	18.8
1948 23	22.1	18.0
1949 24	21.6	16.9
1950 25	17.1	14.6
1951 26	12.5	11.0
1952 27	9.1	8.5
1953 28	6.7	6.6

* 本学教授, 医博

1954	29	6.0	6.2
1955	30	5.8	5.2
1956	31	5.3	4.9

尚 T.B の死亡者数については、終戦前には毎常4,500~5,000の多きをつづけていたが、最近に至りて漸く1,000 そこそこの好成績を挙げるまでに下降したことは注目に価するところである。(第2表)

第2表 京都府 T.B 死亡者数

(人口 10,000 対)

		京都府		全 国	
		全結核	率	全結核	率
1952	昭27	1,666	9.1	70.499	8.5
1953	28	1,269	6.7	57.751	6.6
1954	29	1,137	6.0	55.001	6.2
1955	30	1,114	5.8	46.635	5.2

第2節 京都府結核死亡率の全国的順位

T.B death rate in Kyoto Prefectureを全国的に観るに、Table III に示すが如く、大体大正時代に於ては東京府に、昭和に入り終戦前は専ら石川県に、終戦後は北海道に次ぎ RANK I~III という著しき high rate をつづけて来たが、1950年頃より京都府T.B 予防撲滅10ヶ年計画がそろそろと効果を現わし来た為か、漸次に下降し、1950年には全国第5 順位に、翌1951年には8 位、1952年には16位、1953年には21位、1954年には一躍25位と降り、最近に至りても引きつづき第10位以下の好成績を呈するに至ったことは喜ぶ可き傾向である。

第3表 京都府 T.B 死亡の全国的順位

(Deaths per 10,000 Population)

Age in Years	Rank I	Rank II	Rank III	Rank of K.P
1912~1916 (大正元~大正5年)	東 京	京 都	大 阪	2
1917~1921 (大6~大10)	東 京	石 川	京 都	3
1922~1926 (大11~昭1)	石 川	東 京	福 井	4
1927~1931	石 川	大 阪	京 都	3
1932~1936	石 川	京 都	大 阪	2
1937 (昭12)	石 川	北 海 道	京 都	3
1938 13	石 川	北 海 道	京 都	3
1939 14	石 川	北 海 道	京 都	3

1940	15	石 川	北 海 道	京 都	3
1941	16	石 川	京 都	北 海 道	2
1942	17	石 川	北 海 道	京 都	3
1947	22	京 都	福 岡	島 根	1
1948	23	北 海 道	青 森	京 都	3
1949	24	北 海 道	京 都	青 森	2
1950	25	北 海 道	青 森	大 阪	5
1951	26	北 海 道	青 森	長 崎	8
1952	27	青 森	大 阪	長 崎	16
1953	28	青 森	北 海 道	大 分	21
1954	29	長 崎	大 阪	佐 賀	25
1955	30	長 崎	大 阪	北 海 道	13

第3節 結核の死因別順位

明治の末期並に大正時代に於ける日本の T.B death rate は極めて高く、毎年の死亡者は大約1,500,000 人、death rate (Mortality) は人口10,000対20以上の high rate を示し、国民総死亡の7分の1を占め、しかも年々増加の一途を辿り何等遞減しない憂う可き傾向を呈し居つたが、京都府に在りても御多聞に漏れず1951年までは相変らず総死因中 Rank I をつづけて来た次第であつた。

第4表 結核の死因別順位

(1949~1955) Jは全国、Kは京都府。

	1949	1950	1951	1952	1953	1954	1955
全 結 核	J 1	1	2	4	4	4	5
	K 1	1	1	3	4	4	4
中 枢 神 經 系 の 血 管 損 傷	J 2	2	1	1	1	1	1
	K 2	2	3	1	1	1	1
悪 性 新 生 物	J 5	4	3	2	2	2	2
	K 3	3	2	2	2	2	2
老 衰	J 4	5	4	3	3	3	3
	K 4	4	4	4	3	3	3
心 臓 の 疾 患	J 7	7	6	5	5	5	4
	K 5	5	5	5	5	5	5
肺 炎	J 6	6	7	7	6	6	6
	K 7	7	8	7	7	8	8
不 慮 の 事 故	J 9	10	9	9	7	7	7
	K 9	9	9	9	6	10	7
下 痢 と 腸 炎	J 3	3	5	6	9	8	8
	K 6	6	6	6	8	6	10
其 他 新 生 児 固 有 の 疾 患、性 質 不 明 児 の 未 熟	J 8	8	8	8	8	9	9
	K 8	8	7	8	9	9	9
自 殺	J —	—	—	—	—	10	10
	K 10	—	10	10	10	7	6
腎 炎	J 10	9	10	10	10	—	—
フ ロー ゼ	K —	10	—	—	—	—	—

ところが1952年には、現在の医学での強力な予防と

治療によつてか、漸くの後退して Rank I を cerebral apoplexy (Apoplexie) に、Rank II を malignant tumor (Malignom) にゆづつて Rank III となり、つづいて1953年以降は更に senility (Altersschwäche) にも一步を与え Rank IV に下降したことは大に喜ばしき現象である。(Table IV)

**第4節 結核死亡数の年令階級別
年次推移**

京都府に於ける T.B 死亡数の年令階級別年次推移を1947年～1955年の9ヶ年に亘り検討するに、従来 T.B の患者は15歳～29歳の青少年層に高きを常道とし、自他共に之を認め処置せられ来つた次第であるが、私の調査に依れば、1953年以降に於てはこうした青少年層の者よりも寧ろ30歳～49歳の壮年層或は50歳以後の老年層者に有病者殊に無自覚性で空洞 cavern (Kaverne) 所有者が意外に多く、death rate (Mortalität) 又最も高きを突き止め得たのである。

この事實は、厚生省が1953年に初めて施行した実態調査 actual investigation の成績と全く相一致した同一の結果を見た次第で、至つて興味深い重大な事項であつた。

第5表 京都府に於ける T.B 死亡数の年令階級別年次推移

	0歳～4歳	4～14	15～29	30～49	50～59	60歳以上	計
1947	158	162	1893	1496	373	198	4,280
1948	159	151	1690	1342	382	227	3,951
1949	216	123	1512	1307	376	274	3,808
1950	204	120	1093	1027	360	310	3,114
1951	130	78	734	760	293	382	2,377
1952	—	—	—	—	—	—	—
1953	51	30	279	442	194	263	1,259
1954	34	37	255	364	192	259	1,141
1955	25	26	227	336	210	273	1,097

第5節 京都市結核死亡率

京都市に於ける T.B death rate は、従来毎常他の郡市に比べ著しく high rate をつづけて来つたが、終戦後は特に American Medicine の進入と共に逐年優良な成績を挙げ Table VI に示すが如き漸減の好実績を示し来たとは申せ、京都府の夫に比べると未だ相当の high rate に在るを憂慮しなければならない。

第6表 京都市 T.B 死亡率

(Deaths per 10,000 population)

	死亡者数	市死亡率	府死亡率
1947 昭22	2,721	27.2	25.3
1948 23	2,636	25.3	22.1
1949 24	2,529	23.4	21.6
1950 25	2,032	18.8	17.1
1951 26	1,581	14.0	12.5
1952 27	1,076	9.7	9.1
1953 28	826	7.2	6.7
1954 29	771	6.6	6.0
1955 30	707	5.9	5.8
1956 31	683	5.6	5.3

**第6節 季節的に見たる京都市
T.B 死亡率**

京都市に於ける1952年中の T.B death rate の seasonal observation によると

- Spring (3, 4, 5M).....235人
- Summer (6, 7, 8).....195
- Autumn (9, 10, 11).....200
- Winter (12, 1, 2).....222

で in January 最多く92人を示し、April (89人) に次ぎ March (79人) は3rd Rank であつた。最も少きは July と October で何れも61人を算し、概して Winter より Spring にかけて death rate は高きも Summer and Autumn には比較的 low rate なるを知つた。

**第7節 性別、年令別に見たる
京都市 T.B 死亡率**

京都市に於ける1949年～1953年に亘る T.B death rate を性別、年令別に検討するに、Table VII に示すが如く各年を通じ male death rate は female death rate に比し毎常遙かに高く、年令的には1949年は従来通り青少年層に高かつたが、1950年以降は京都府並に日本全国に於けると同様に漸次に後退し、1953年には男女共に30～49才の壮年層若しくはそれ以後の老年層に high rate を見るに至つたことは興味あるところである。

第7表 性別、年齢別 T. B 死亡率

(1949~1953) Deaths per 10.000 Population

Year	1949			1950			1951			1952			1953		
	♂	♀	T	♂	♀	T	♂	♀	T	♂	♀	T	♂	♀	T
0 ~ 4	15.2	13.7	14.0	11.9	9.2	10.6	7.7	8.0	7.8	5.8	3.6	4.8	2.6	3.0	2.8
5 ~ 14	3.5	4.4	4.0	3.6	4.1	3.9	2.9	1.8	2.4	0.9	1.7	1.3	1.0	0.6	0.8
15 ~ 29	38.4	35.8	37.1	20.7	23.0	21.9	16.7	16.2	16.5	9.9	10.5	10.2	6.9	5.9	6.4
30 ~ 49	38.9	25.3	32.1	31.3	17.5	24.4	22.1	17.2	19.7	16.6	9.5	13.1	14.6	8.5	11.6
50 ~ 59	45.9	21.8	33.9	40.4	15.1	27.8	32.4	12.3	22.3	25.9	10.8	18.4	20.9	9.4	15.2
60 以上	48.8	17.3	30.0	42.5	13.1	25.0	45.3	12.6	26.4	37.1	13.4	23.0	32.5	11.4	20.0

♂は男, ♀は女, Tは Total (計) を示す。

第3章 結核罹患者

第1節 京都府結核罹患率

京都市に於ける number of T.B. Patients は如何というに、それは全府市民の1人1人に対し洩れなく徹底した Close medical examination を施行しない限り不明確であることは論をまたない。手つとり早い推定として従来は T.B 死亡者数に一定の係数 Coefficient をかけた数即ち死亡者数の10倍の患者が居ると見なすのが常識であつた。

ところが最近に至つて T.B death rate が著しく低下したにも拘わらず T.B Sick rate は決して之に正比例し居らない幾多の実績が現われて来たのである。(第2.第8表)そこで日本政府はこうしたクリーゲル係数に重きを置くよりも、より正確数を得べく、T.B Patients の強制届出制を強化すべく1951年に結核予防法(法律第96号)を制定公布したことにより、医師 Tuberculosis と診断した場合は24時間以内に所轄保健所長に届出なければならぬことに相成つたことは衆知の通りである。

本法の施行による1952年~1955年に亘る4ヶ年間の T.B sick rate (Morbidität) は第8表に示す通りで、患者数は死亡数の10~14倍を示している。

第8表 京都府に於ける T.B sick rate

(人口10.000対率)

	京都府		日本	
	患者数	率	患者数	率
1952年	17,505	94.3	586,651	68.3
1953	15,718	83.8	507,244	58.3
1954	15,842	83.3	523,556	59.3
1955	14,631	75.6	517,477	58.0

第2節 実態調査成績から見た結核罹患者数

厚生省は、a subject for Tuberculosis in Japan は決してゆるがせにしておけない見地から、Foreign Country の何れにも類例を見ない大規模な組織と計画とを以つて1953年の July~October の4 months に亘り all Japan の 211 Area を選び約50,000人を対象として The First T. B actual investigation を施行し、引きつづき Second, Third.....investigation にかかることとしたのであるがこうした actual investigation によつて初めて all Japan は申すに及ばず全京府市民間の T.B Patients の正確数が承知し得られることと相成つたのである。

然しながら現在京都府民は1,933,468人(♂943,496人♀989,972人)で京都市民は1,203,740人(♂585,810人♀617,930人)であるがこうした全府市民に対し洩れなく Close medical examination を行うことは種々の Circumstances から時間尚早で未だ Impossibility なりと称すべきであるから exact figures はⅡ~Ⅲ actual investigation に一任し、それ迄の間は矢張りクリーゲル係数を参考とし、結核予防の規定による医師の届出を信頼し行くべきであると思料するところである。